

# 「常緑」植物の多様性

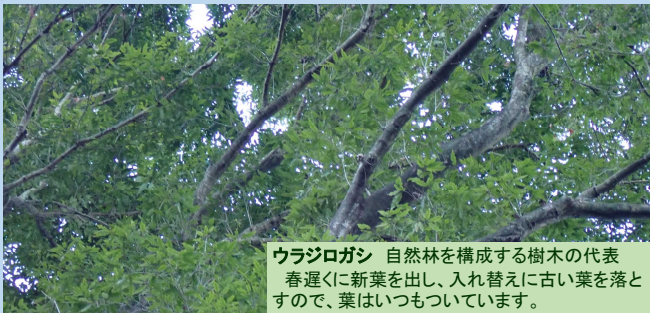
1年中葉を持つ植物を「常緑性」、冬に葉がないものを「落葉性」と呼んでいます。冬は寒く、乾燥するので、葉を持つことは、寒さで働けない上に脱水しやすいという不都合があります。もし夏に十分働けるのなら、冬は休んだほうが楽チンです。一方で、冬に葉があれば、光合成をすることができる日があるかもしれないし、春に暖かくなったらすぐに働けるので、落葉性の植物より長く光合成ができて、その分生長も早くなり、花も実もたくさん作れるでしょう。

冬の寒さと乾燥に耐えられる葉を作るには、それなりに「物」も「エネルギー」も必要になりますが、それ以上のものが得られる可能性もあるのです。

ただ、葉の作り方とタイミング、落とすタイミングには、いろいろな場合があつて、一様ではありません。

## 常緑高木

関東平野の自然林の主役は常緑広葉樹です。森林の最も上に葉を広げるので、1年中十分な光が当たりますが、冬は放射冷却で凍結のリスクがあり、対策が欠かせません。



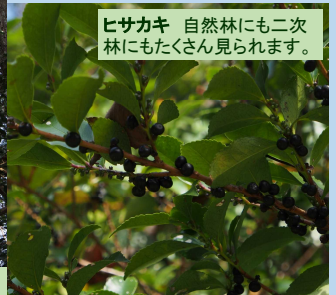
**ウラジロガシ** 自然林を構成する樹木の代表  
春遅くに新葉を出し、入れ替えに古い葉を落とすので、葉はいつもついています。

## 常緑低木

林冠には出ないで、高木の下になる位置に葉を広げます。夏は高木の葉に遮られて弱い光しか使えませんが、高木が落葉樹ならば、常緑であることで冬から早春の光を利用する利点が大きくなります。



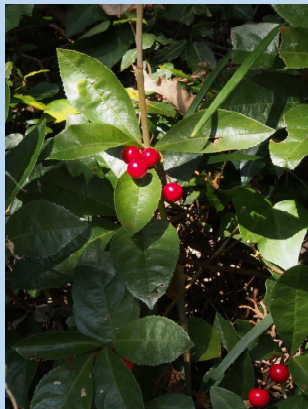
**ヤブツバキ** 自然林には亜高木か低木の形で、良く見られます。冬から花を咲かせ、春には花数が多くなります。



**ヒサカキ** 自然林にも二次林にもたくさん見られます。

## 草本

森林内では常に日陰にあつて、光には不自由しています。冬から早春の光が使えれば、大変有効でしょう。



**ヤブコウジ** 木本に分類されますが、林内での位置は小型の草本と同じです。新葉は1年に一度出します。

**アズマヤマアザミ** 冬は地際にロゼット葉を広げます。春、花茎が伸びてくると、この葉は枯れます。



**ユリワサビ** 湿ったところの多年草。1年中葉があります。春には花と新葉を作ります。

**セントウソウ** 一見柔らかそうな葉ですが、冬も枯れません。同じように見えても葉は入れ替わっています。



## 葉の寿命

常緑樹の葉は、落ちないのではなく、1年に一度、新しい葉を作るのと入れ替えに、古い葉を落としているので、葉の寿命はちょうど1年か、それ以上の長さになります。同じ木の下の枝の葉は、日当たりのいい枝の葉より長く、2～3年ついているのが普通です。そこで、葉の平均寿命は1年以上になります。

低木では全体の日当たりが悪い分、寿命の長い葉が多くなりますが、やり方は高木と似ています。

小型の植物では、高木と同じように、1年に一度新葉を作るタイプもありますが、短い間隔で葉の入れ替えを行い、日差しの短期的な変化にも対応できる植物もあります。この場合、葉の寿命は1年より短く、数か月以下のこともあります。その代わりに厚く丈夫な葉ではなく、薄く柔らかい葉を作り、その時の状況に応じて、大きな葉と小さな葉を使い分けます。

**ナガバジャノヒゲ** いかにも丈夫そうな葉を1年中付けていますが、じつは少しずつ入れ替えています。

**サイハイラン**の葉は、秋に出たものです。冬を越し、初夏に花が終わるころには枯れて、夏の間は出てきません。常緑ではないことになります。

